石川県白山市　舟岡山城跡

（所在地）石川県白山市八幡町戌1番地外285筆
（赤枠）285筆115,805.91㎡　地権者63名
（内県有地11筆　市有地11筆を含む）

舟岡山城跡の概要

- 白山麓の谷間集落と手取川扇状地の結ぶ独立丘陵舟岡山（標高184.5m）山地の山稜部に位置する。
- 戦国時代、加賀一向一揆勢と織田信長勢対峙した際に、現状の縄張りとなった。
- 北側に大きな堀切等を構え、南側には石垣や櫓台を伴った遺構が明確に残存している。
- 慶応７年（1602）年に前田利家の家臣であった高畠定吉が隠居した事により廃城となり、その後、大規模な地形の改編は行われていない。
- 縄張りの形態は、金沢城、高岡城、松任城跡など前田氏初期の形態を保持している。

発掘調査の成果（平成25～28年度）

- 平成25年度は、石垣・石積の悉皆調査を実施し、南側に大規模な石垣遺構を確認した。
- 平成26～28年度にかけて、北側の防御施設を想定し、トレンチを設定して発掘調査を実施した。
- 北側（北側鞍部地形）で自然地形を利用した堀切を確認した。
- 北側で人工的に造成された帯曲輪を確認した。
- 北西曲輪二上段で、17世紀以前に人工的に造成された平坦面や溝跡を確認した。

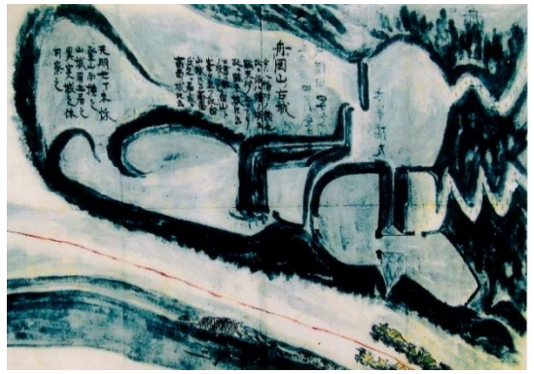
指定予定地（東側より）

①　主曲輪南東石垣

②　西一曲輪石垣櫓台

④　主曲輪北西櫓台石垣

③　南曲輪東側石垣



天明7年（1787）年記載の絵図